

東門に出づ、行程七里餘此に宿す。

是の日經過せし地形を摘記すれば、南に一連の秦嶺あり、北は逶迤たる渭水に臨み、華州を距る約一里の比より、漸次秦嶺に接近して、恰も三角形の平地を成し、一路其の南邊に通す其の北側は概ね平坦開濶なるも路南は高地直に秦嶺に連る。途上村落較多きに似たりと雖も、亦穴居者の散見するあり。山及高地は、鋤鋤の届かざる所なきが如し。

渭水の水運

渭水を上下する所の河舟は約三百隻、皆山西石炭の搬致に係る。道路は寛にして平坦なれども雨後は通過し難く、只路外即ち南側に依れば容易なりとす。蓋し本日は我天長節に値れるが故に、渭南着後、西門の飯館子(酒亭)に投じて祝杯を擧げ陛下の萬壽を祝したり。

第一回の天長節

旭日瞳々陰靄開 晴光自覺興情催

天長佳節遠征客 萬里遙稱萬壽杯

生路山川處々新 紅楓亦似百花春

渭南正值天長節 遙望東瀛拜紫宸